

自治体間情報誌 「FREEDOM」

2011年10月



- ☆ おすすめ！えいとこ探訪記
- ☆ 切磋琢磨～わがまち行政くらべ～
- ☆ ここが変だよ！お役所仕事
- ☆ できる行政マンの仕事術
- ☆ ～わがまちの伝説の職員～
- ☆ 先輩職員の知恵袋

星ヶ窪キャンプ場

おすすめ！えいとこ探訪記

仁淀川町長者の奥地に、人里離れたキャンプ場があります。山の上なのに広々とした窪地になっており、静かでのどかな場所で、その昔隕石が降ってきてできたという言い伝えがあり、名前は「星ヶ窪」と名づけられました。

天気が良いと、津野町の風車や鳥形山の鉱山なども見られ、山あいから覗く景色も楽しむことができます。何と言っても、夜の星空を見たら一発で気に入ることは間違いないでしょう。あたりに光は一切なく、月と星の明かりだけの世界に酔いしれてみてはどうでしょうか？



お問い合わせ先

仁淀川町役場

〒781-1592 高知県吾川郡仁淀川町大崎124番地

TEL:0889-35-0111 FAX:0889-35-0571

E-MAIL: info@town.niyodogawa.kochi.jp



いませぐ検索!!

切磋琢磨～わがまち行政くらべ～

各自治体の仕事の仕方、工夫や違いをとりあげ、お互いに行政力向上のヒントを見つけるコーナーです。

今回は、「自治体の玄関」ともいえる窓口にスポットをあて、そこに必ずある**申請書**をくらべてみました。

住民目線の申請書

窓口での手続きのこと。戸籍・住民票・印鑑証明がほしいけど、あれもこれも申請書を書かなくては！こんなとき、自分が住民だったら「面倒くさいな」というのが正直な気持ち。

しかし、中土佐町では戸籍・住民票・印鑑証明が、仁淀川町では住民票と税務関係など一般証明や閲覧が、そして、津野町では全てまとめて鳥獣許可まで一緒に請求できちゃいます。

課の編成の違いもあるけれど、少ない書類で手続きができる。これって住民に対して、とっても親切なことだと思いませんか。

事務処理に効率的な申請書

本人確認が義務化され、申請書に共通してあるのが本人確認欄。何で本人確認したのか証拠を明らかにするのって行政らしい。

また、須崎市の申請書には、手数料や取扱者の確認欄。1枚見れば、すべて確認OK！事務的に効率化された申請書のように思います。

注意事項の違い

須崎市の戸籍請求書の裏面をみると、そこには、びっしりと注意事項が！確かにどれも戸籍法に基づくものだけど…この注意事項をみる住民はどれほどいるのか？

中土佐町、津野町、日高村はごく簡単な注意事項が1～2個程度。仁淀川町に関しては、特別な注意書きはありません。

また、偽りや不正取得の場合に科せられる罰金または過料について注意書きがある、中土佐町、須崎市、日高村。注意事項の書き方も自治体で随分違うものなんですね。

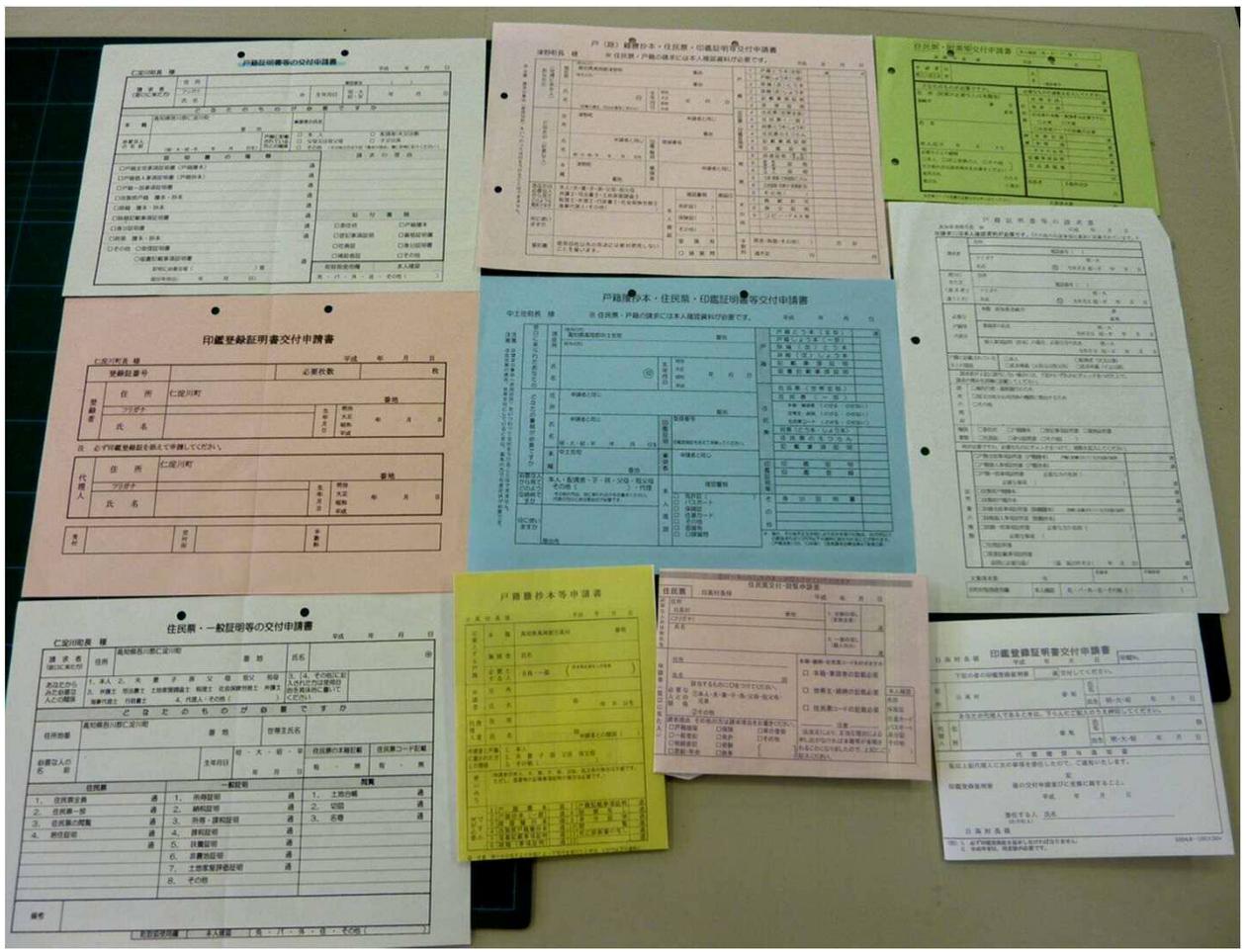
何のための注意書きか。本当に必要な注意書きは何か。今一度検討してみてもいいかもしれません。



同じ申請書でも、各自治体でこんなにも違いがあるなんて！奥が深い！

他の自治体はどうしているのかな？日々、こんな疑問を持って業務をしてみてはどうでしょうか。

市町村によってこんなにちがうんだあ



ここが変だよ!

お役所仕事



若手視点で見直そう!

「Stop The たらい回し」

電話や窓口で、他の課から案内されてきた住民の方。でもその方が聞きたいことorやりたいことは別の課の担当……。ああ、またさらに別の課に案内することに……。そう、俗に言う「たらい回し」。

なぜ起こってしまうのでしょうか?案内をする課への確認を怠らなければ済む話かもしれませんが、職員の知識不足というものが根底にあると考えられます。市町村役場という組織に属している以上、どこでどんな手続きや業務を行っているのかキチンと把握しておきたいものです。究極を求めれば、どんな手続き・業務内容でも担当課レベルで淀みなく答えられるスーパー職員(?)なんてというのが理想かも知れませんが……。

かといって、頑張っで自分で答えてみようとしても、話が深くなっていくと対応しきれず「やっぱり代わります」なんてことになる、あなたの株が大暴落の危険性大!親身になるのは勿論いいことですが、背伸びをしたがために住民の方にかえって迷惑をかけてしまっでは元も子もありません。

無難ではありますが、業務内容については担当課にお任せしましょう。一発で担当課に案内できれば「たらい回し」にはなりません。やはり責任を持って答えることのできる担当課で対応するのが一番です。

また、他課へ案内する時も、自分の課と関連する課以外の業務は分からなくてもしょうがないというスタンスではなく、職員として答えられなくて申し訳ないという気持ちを持ちたいものです。その気持ちがいつか自分をスーパー職員にすると信じて……。

できる行政マンの仕事術

快適電話術!

電話でのやりとりはお互いの顔が見えないだけに、気をつけることが多い。これも「窓口」。ちよつとした心遣いでグツと良くなるポイントをご披露!

① 3コール以内で受話器を取りましょう!
目的があつて電話を掛けてきている相手を持たせないよう「3コール以内」を意識して。

② まず名前を名乗りましょう!
電話でのやりとりは立派なコミュニケーション。相手に信頼してもらうためにも、まずは自分の名前を。

③ 「保留ボタン」を使いましょう!
電話を替わる、書類を探すときは「保留ボタン」を。決して、「ガサガサ・ザワザワ」しないように……

④ 終わりはちよつとした間が大事です。
「ガチャ!」と勢い良く受話器を置いた音は相手にも聞こえる。ちよつと間を取つて、相手が切つたのを確認しつつ、静かに置くのが大事。

こういうのは普段からの実践が必要なんですよね。



～わがまちの伝説の職員～

甲子園へ通い始めて、ほぼ10年。
甲子園に酔いしれた伝説の職員を紹介します。

【きっかけ】

高校野球に興味をもったきっかけは最早忘れてしまいましたが、学生時代にテレビで見た明徳一横浜戦だったような気がします。試合も終盤、明徳が6点だか7点だかくらいリードしていました。

「この試合決まったな！」と明徳の勝利を確信したところで、小腹が空いたのでポテトチップスでも買おうと駄菓子屋へ。のんびり帰宅してテレビをつけたら、松坂大輔が笑顔で横浜高校の校歌を歌いあげていました。

あまりの衝撃に、気付けば次の日の決勝戦を現地で見ている私。この無駄な行動力は若かったせいです。これが初めての甲子園でしたが、正直なところほとんど覚えておらず、甲子園の怪物・松坂と人ごみの多さに酔ったという、しょっぱい記憶ぐらいしか残っていません。ただ、この時から、「社会人になっていっぱい稼げるようになったら年に一度は甲子園へ行きたいなあ」と思うようになりました。

「わざわざ暑い中見に行って、よっぽど野球が好きながやね～」とよく言われます。私の場合、野球が好きというよりも甲子園の雰囲気が好きだから通っているのかも知れません。そもそも本当に野球を愛している人ならば、甲子園まで行って試合を見ずに昼寝をするなんてことはないでしょうから……。

ちなみに、リニューアル前の甲子園は1塁アルプス最上段が最高の昼寝ポイントでした。午後には日陰になり、浜風が吹きまくって涼しいのです。現在は横になる程のスペースはなく、立つのがやっとぐらいになってしまいました。

自治体のおもしろい趣味等を持った
職員さんを紹介するコーナーです!!



津野町議会事務局 書記 又川 知実

←今年の夏も行ってきました。
応援したチームが全て負ける
という疫病神ぶりを発揮して
きました。

【忘れない名シーン】

2006年の開幕日、3試合目は大阪桐蔭一横浜という大注目のカード!! 私は1塁側アルプス最上段、外野席真横で爆睡してしまっていました。

気持ちよく眠っていた私を起こしたのは地鳴りのような歓声でした。大阪桐蔭にホームランが出て、続くバッターは現・日ハムの中田選手だったのです。高校球児の中で一人だけまるでオッサンのような体格で、かなり離れている私の耳にまでバットの素振りの音が聞こえていました(多分幻聴です)。

中田選手のテーマソングだったQueenのWe Will Rock Youに乗って観客が手拍子を打ち、それがまた低くお腹の底に響いて、甲子園は異様な雰囲気になっていました。そんな中、中田選手は飄々と打席に立ち、ヒュッと軽くバットを一振り。打球は物凄い速さでバックスクリーンに直撃しました。一瞬甲子園が静まりかえり、怒涛の歓声が響き渡ったのでした。本物のスターっているんですね。こんな時、甲子園に来てよかったなあと思えます(寝てたけど)。

先輩職員の知恵袋

日高村役場

副村長 谷本 勲 -Isao Tanimoto-

日本の
知
日高村

◆あつという間の35年間

振り返ってみると、新人の時に人の仕事まで取りに行った勢いの日々、係長になり、日々、これでもかこれでもかと食欲に仕事に打ち込んだ日々(家庭は母子家庭になっていたが・・・妻に感謝感謝。)管理職として全体を視野にと心がけた日々……。

楽しい時、苦しかった時、充実していた時、それぞれ思い浮かんでくるが、アツという間の35年間であつたように思う。異動により、建設課以外は全て経験してきた。他の職場が楽しそうに見えた時も度々あった。しかし、この仕事が自分の仕事と思いついて打ち込んできたことが、結果を生んできたと思う。私に関わってきた青年達が、地域の活動家としてどんどん成長していく姿を、地域活性化を図ってくれている姿を見るにつけ、行政職員になって良かったなとつくづく思う。

後輩の皆さんも、住民の皆様に対しては、常に誠意をもった対応をして頂きたい。それを継続することで、いつのまにか、自分を理解し協力してくれる人たちが自分のまわりにたくさんできているはず。



おらが
むらの副村長
じゃ



もへいくん
むらの副村長

◆私たちは仕掛人!!

行政の仕事は、制度的なものを含め多種多様である。権限委譲とか言いながら市町村の仕事は増えてきた。法的にやらなければならない内容はともかく、喫緊の課題は、震災対策や地域再生、地域を愛する人づくりではないだろうか。

1つの目標に向かう時、それは大きな労力、忍耐力が必要であり、それに伴う努力も必要である。

担当になった時、その課題に対する現状を把握し、それを分析し目標を立てる。目標を達成するために手段をと……。対象の住民や団体、組織に課題提起をして引っ張っていく。

しかし、それには限界がある。そのアクションにより、社会は、一度は動くかもしれないが、数年後、その担当が代わればどうだろうか。地域に目を向けると素晴らしい人材がたくさんいる。これからの地域再生へ向けて、行政と共に課題を共有し取り組んでくれる人材がいる。地域に向け、社会に向け、仕掛けていくのではないか。

『私たちは幸せさがしの仕掛人!!』